

**News Release**

報道関係各位

**～第12回 オンコロジーメディアセミナーのご案内～  
【 講演抄録の御連絡 】**

NPO 法人 がん医療研修機構と大鵬薬品工業株式会社は、がんの医療情報をごん患者さんやその家族だけでなく広く正しく伝達するために、メディアの皆様を対象にオンコロジーメディア セミナーを開催しております。平成18年7月に第1回セミナーを開催し、今回で12回目を迎えます。がん医療研修機構は主にごん医療に携わる医師、看護師、薬剤師など全ての共働者によるチーム医療を推進する活動をしておりますが、本セミナーは、がん専門医の先生方にそれぞれの分野からメディアの皆様に向けてがんの検診、診断、外科手術、化学療法、放射線治療、緩和医療などあらゆるがん医療についてご講演頂きます。皆様におかれましてはご多忙中、誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜りますよう謹んでご案内申し上げます。

NPO 法人 がん医療研修機構 理事長 塚越 茂

---

**記**

---

日時 平成22年5月31日（月） 17:50～  
会場 経団連会館 5F ルビールーム  
〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2  
共催 NPO 法人 がん医療研修機構 大鵬薬品工業株式会社  
後援 日本癌学会 日本癌治療学会（予定）  
協力 日本医学ジャーナリスト協会

**テーマ「血液癌治療の進歩と最新の制吐剤ガイドラインの紹介」**

司会 大野 善三氏（日本医学ジャーナリスト協会会長 元NHK）

開会にあたって(17:50～18:00) がん医療研修機構理事長 塚越 茂先生

**■ 講演1 (18:00～18:30) 講演 30分/質疑応答含**患者福音への道標 本邦初 「制吐薬適正使用ガイドライン」の紹介  
東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科 相羽 恵介先生**■ 講演2 (18:30～19:00) 講演 30分/質疑応答含**慢性骨髄性白血病の最新の治療  
東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科 矢野 真吾先生**■ 講演3 (19:00～20:00) 講演 60分/質疑応答含**悪性リンパ腫の治療 最近の動向  
国立がんセンター中央病院 血液内科グループ 飛内 賢正先生**情報交換会 (20:05～21:00)** \*セミナー終了後、ご講演の先生方と懇談していただきます。

当日ご来場者いただきました皆様へは、今月発刊いたします著者：日本癌治療学会編  
『制吐薬適正使用ガイドライン2010年5月』（税込：2,310円）をお配りいたします。

**大変恐縮ですが、別紙ファックス返信用紙にて出欠のご返事を5月31日(月)AM迄にお送りください。**

## < 講演1 講師ご略歴・抄録 >

患者福音への道標 本邦初 「制吐薬適正使用ガイドライン」の紹介  
東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科 相羽 恵介先生

抗がん薬副作用の中で、患者が最も忌み嫌うのは悪心・嘔吐である。1990年代初頭に 5HT<sub>3</sub> 受容体拮抗薬が登場し、抗がん薬投与 24 時間以内に発現する急性の悪心嘔吐は緩和された。しかしその効果は限定的であり、抗がん薬投与 24 時間以降 120 時間に発現する遅発性の悪心嘔吐には無力であり、かつ急性に対しても満足できるものではなかった。このたび有望な新規制吐薬が臨床に導入された。長時間効果持続型の 5HT<sub>3</sub> 受容体拮抗薬であるパロノセトロンと遅発性の悪心嘔吐の主たる原因物質と考えられている P サブスタンスの受容体である NK-1 受容体の拮抗薬であるアプレピタントである。これらの薬剤を用いた臨床成績では、急性・遅発性ともに従来より優れた緩和効果が認められている。すなわち、抗がん薬による急性・遅発性悪心・嘔吐の全制御を目指す新たな時代を迎えている。こうした状況から、日本癌治療学会では「制吐薬適正使用ガイドライン」を新たに策定し、流布に努めている。適切な対応により従来より優れた悪心・嘔吐緩和効果が期待されている。患者福音の道標であるガイドラインを紹介したい。

### 相羽 恵介 先生ご略歴

1977 年 3 月 東京慈恵会医科大学卒業  
1984 年 4 月 東京慈恵会医科大学第 3 内科学教室助手  
1987 年 1 月 米国国立癌研究所 (NCI) 癌治療部門臨床薬理ブランチ研究員  
1988 年 8 月 米国国立癌研究所 (NCI) 癌治療部門内科ブランチ研究員  
1990 年 10 月 癌研究会附属病院化学療法科医長  
1993 年 9 月 癌研究会附属病院化学療法科副部長  
2002 年 5 月 慈恵医大内科講師  
2005 年 5 月 東京慈恵会医科大学内科助教授  
2006 年 9 月 東京慈恵会医科大学内科学講座 腫瘍・血液内科教授  
附属病院 腫瘍・血液内科部長、4 病院腫瘍・血液内科統括部長

現在に至る。

## < 講演2 講師ご略歴・抄録 >

### 慢性骨髄性白血病の最新の治療

東京慈恵会医科大学 内科学講座 腫瘍・血液内科 矢野 真吾 先生

慢性骨髄性白血病(CML)は特徴的な染色体異常(フィラデルフィア染色体)を本態とする慢性白血病の代表疾患で、スコットランドの Bennett により 1845 年に初めて報告された。白血病の罹患率は、人口 10 万人に対して男性で年間 6 人、女性で年間 4 人、このうち CML は約 20%を占める。慢性の経過をとり、健康診断などで白血球増多を指摘され診断に至ることが多い。CML に対する治療は 1959 年以降から進歩し、ブスルファン、ハイドレア、インターフェロン $\alpha$ によって、生存期間が延長するようになった。1970 年代の半ばに米国の Seattle のグループが同種骨髄移植を行い、CML に治癒をもたらせた。一方 CML の発生機序に関する研究が進み、フィラデルフィア染色体の Bcr-Abl 蛋白を標的としたイマチニブが 1998 年に登場した。臨床試験にて優れた有効性と安全性が確認され、CML 治療の第一選択薬となった。これを受けて 2006 年 European LeukemiaNet から、イマチニブによる CML 治療のコンセンサスが提示され、臨床指針として活用されている。

### 矢野 真吾 先生ご略歴

- 1989 年 東京慈恵会医科大学卒業
- 1989 年 国立東京第 2 病院 (現：国立病院機構東京医療センター)内科で研修
- 1991 年 東京慈恵会医科大学第 3 内科学教室医員
- 1997 年 医学学位取得
- 1998 年 米国国立衛生研究所/米国国立加齢医学研究所  
(National Institute of Health/National Institute on Aging)留学. T 細胞の転写因子が結合する遺伝子のプロモーターのメチル化に関する研究と多発性骨髄腫細胞における腫瘍性免疫グロブリンの産生を調節する蛋白に関する研究を行う。
- 2002 年 東京慈恵会医科大学附属病院血液・腫瘍内科助手
- 2003 年 同上附属病院血液・腫瘍内科診療医長
- 2008 年 東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科講師

現在に至る

## < 講演3 講師ご略歴・抄録 >

悪性リンパ腫の治療：最近の動向

国立がん研究センター中央病院 血液内科 飛内 賢正 先生

白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫の三大血液腫瘍の中で、悪性リンパ腫は患者数が最も多い。悪性リンパ腫の発生部位は、リンパ節の他に、扁桃、脳、眼、皮膚、消化管、乳腺、生殖器、骨など、全身のあらゆる臓器に及ぶ。発生母地である免疫系（リンパ組織）の多様性（B細胞腫瘍、T細胞腫瘍、NK細胞腫瘍など）と遺伝子・蛋白異常や病因の多様性を反映して、極めて多様性に富む多くの疾患単位から構成される。治療選択の観点から見ても、化学療法、放射線療法、抗体療法、分子標的療法、造血幹細胞移植療法などの多種類の選択肢があり、無治療経過観察が許容される疾患単位も存在するが、わが国独自の開発を含めて、新薬開発が最も活発に行われている悪性腫瘍でもある。本講演では、ホジキンリンパ腫、びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫、濾胞性リンパ腫などの代表的な疾患単位を取り上げ、その診断、治療のプロセスと、標準治療、新薬開発の現状などを解説する。

### 飛内 賢正 先生ご略歴

1976年3月 東北大学医学部卒業  
1976年4月 福島県いわき市立総合磐城共立病院内科で研修・勤務  
1980年6月 国立がんセンター病院内科レジデント  
1983年6月 福島県いわき市立総合磐城共立病院 内科医長  
1986年1月 国立がんセンター病院 臨床検査部 血液検査室医師  
1990年1月 国立がんセンター中央病院 薬物療法部 第三薬物療法室医長  
1997年7月 国立がんセンター中央病院 第一領域外来部 通院治療センター医長  
1999年1月 国立がんセンター中央病院 特殊病棟部 13B病棟医長  
2005年5月 国立がんセンター中央病院 第一領域外来部 造血器科医長  
2006年4月 国立がん研究センター中央病院 第一領域外来部 部長  
現在に至る

第 12 回 オンコロジーメディアセミナー事務局行き

FAX 返信用紙 FAX 03-3573-2064

日 時 :平成 22 年 5 月 31 日(月) 17時 50 分～(受付開始 17時 30 分～)

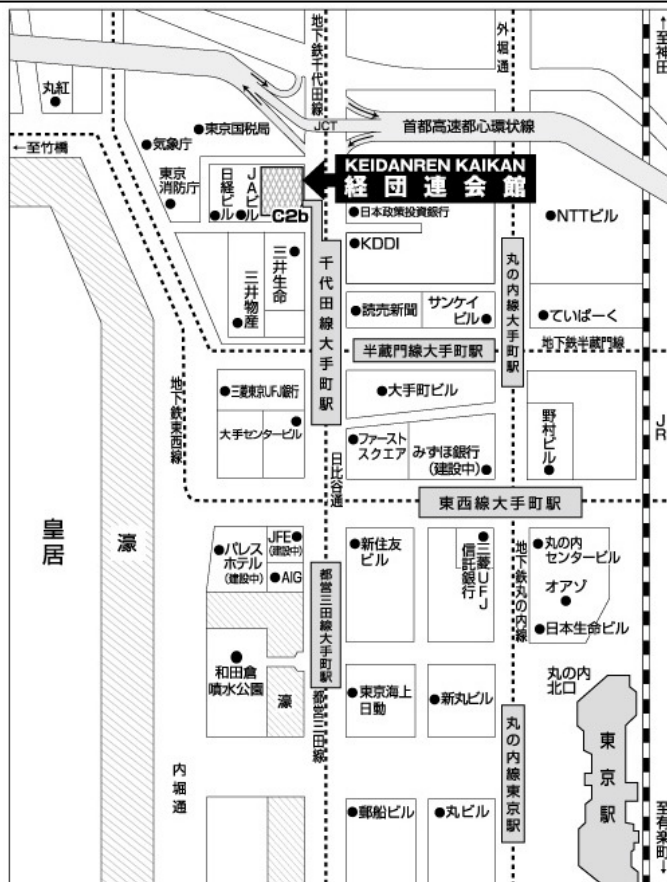
場 所 :経団連会館 5F ルビールーム (〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2)

いずれかに○印をおねがいたします。 **ご出席** / **ご欠席**

(既に御連絡いただいております方は、御連絡不要です。)

お名前	
貴社名	
貴部署名	
電話番号	
FAX 番号	
E-mail	
備考	

経団連会館へのご案内



当セミナーに関するお問い合わせ先: オンコロジーメディアセミナー事務局

(株)協和企画内 担当:生熊 倫子

〒105-0004 東京都港区新橋 2-20 TEL:03-3573-2060/FAX03-3573-2064